

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成30年1月16日

協議会名: 中土佐町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
有限会社 中土佐ハイヤー	①萩原循環線 ②大野鎌田線 ③黒石野線 ④黒石野線(楠の川) ⑤松の川川崎線 ⑥大坂線 ⑦長沢線 ⑧下ル川線 ⑨萩中線 ⑩高樋線	一部路線に関しては、運行区間及びダイヤを見直し、地域間幹線系統及びJRとの接続を改善した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 利用状況に差はあるものの生活に必要な路線として定着している。全体の利用者数としては、路線の再編により増加しているが、各路線の利用状況は目標値を下回る状況となっている。 ①目標5人/日に対し2.4人/日 ②目標2人/日に対し0.7人/日 ③目標2人/日に対し0.3人/日 ④目標12人/日に対し8.5人/日 ⑤目標6人/日に対し3.7人/日 ⑥目標3人/日に対し2.3人/日 ⑦目標5人/日に対し1.8人/日 ⑧目標25人/日に対し19.2人/日 ⑨目標20人/日に対し16.2人/日 ⑩目標15人/日に対し11.6人/日	生活交通手段としての定着は出来ていると解釈しているが、独自の移動手段を持たない高齢者が積極的に利用してくれている反面、体力の低下などの理由から外出すらできない状態となっている者もあり、利用者は減少している。 今後は、新たな利用者の掘り起こしに向けた利便性向上策はもちろんのこと、福祉部門との連携を強化し、引き続き利用者及び沿線地域住民とのヒアリング等を通じてコミュニティバスを知ってもらい一度体験していただく広報活動にも力を入れ、各路線が持続して運行できるよう取り組む。 一方で、著しく利用者数が少ない状況が続き、底上げの利用者底上げの期待ができない路線については、運行形態の大幅な変更、及び廃止を検討する必要がある。